

後援会だより

第11号 2011. 3. 10

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

○ごあいさつ

後援会会長 小原 幸三・・・・・・・・・1
法文学部長(後援会顧問) 石川 英昭・・・・・・・・・2

○専門職大学院報告

司法政策研究科長 采女 博文・・・・・・・・・2
臨床心理学研究科長 安部 恒久・・・・・・・・・3

○就職支援事業

就職ガイダンス参加学生支援・・・・・・・・・3

○就職支援室・・・・・・・・・4

○主な支援事業の成果報告

〈沖縄実地見学〉・・・・・・・・・5

〈三大学合同ゼミ活動報告〉・・・・・・・・・5

〈心理リハビリテーション研修〉・・・・・・・・・6

〈ヨーロッパ研修旅行〉・・・・・・・・・6

〈歴史民俗資料館実地調査〉・・・・・・・・・7

〈留学における単位修得支援〉・・・・・・・・・8

○保護者の皆様からのメッセージ・・・・・・・・・9

○保護者アンケート集計結果・・・・・・・・・10

○平成22年度後援会役員一覧・・・・・・・・・16

後援会会長ごあいさつ

鹿児島大学法文学部後援会 会長 小原 幸三

会員の皆様にはご健勝のことと拝察申し上げます。日頃より後援会の活動につきまして、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。



さて、昨今の社会情勢を顧みますと、国会での平成23年度予算案を巡る混迷や景気低迷による雇用状況の悪化など厳しい状況が続いています。

また、鳥インフルエンザの発生や新燃岳の噴火など暗いニュースが多い中、明るい話題といえば3月12日に九州新幹線が全線開通することでしょう。最速の「みずほ」は大阪まで最短3時間45分で結ぶそうですが、春の訪れが待ち遠しい今日この頃です。

国の発表によりますと、今春卒業予定の大学生の就職内定率は、平成22年12月1日現在で68.8%と過去最低の水準となっています。後援会では、こうした厳しい状況を踏まえ、今年度から新規の就職支援事業として「就職説明会・ガイダンス参加学生への交通費補助」を実施いたしました。さらに就職支援室での就職相談に加え、今年度はハローワーク鹿児島からキャリアカウンセラーの資格を持つジョブサポーターを毎週月曜日に派遣してもらい、面接対策、個別

就職相談やビジネスマナー指導などきめ細やかな就職対策を行っております。

また近年、海外に留学する大学生の減少が問題となっています。原因の一つとして就職活動の早期化や学生の内向き志向が指摘されていますが、我が国が国際社会の一員として生き残っていくための鍵となるのは「人材」であり、若い時代に海外で勉学に励むことは、国際人としての教養を身につける上で極めて重要な経験となります。多くの企業がグローバル化を進め、海外展開推進のために海外留学経験のある人材を求めており、逆に最近では留学生を積極的に採用するようになってきました。後援会でも、学生の海外留学の促進を図るために、今年度から新規事業として「国際学術交流協定校への留学における単位修得支援」を始め、ドイツやオーストラリアに留学した学生の支援を行いました。

鹿児島大学の第2期中期計画では、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しており、「進取の精神」を持ち、自ら困難な課題に果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図る学生を育成しようと考えております。鹿児島には「泣こかい、飛ばこかい、泣こよか、ひっ飛ばせ！」という言葉がありますが、卒業生が勇気を持って社会に飛び立ち、大いに飛躍することを願ってやみません。

最後になりましたが、皆様には今後とも後援会活動への一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

法文学部長(後援会顧問)ごあいさつ

法文学部長 石川 英昭

今年も早卒業式、入学式の季節がやってきました。この冬は、例年になく寒さが厳しく、また新燃岳が爆発するなど、天変地異が記憶に新しいところです。中国では古く災異思想が存在し、天地の異変は統治者の誤りを指弾するものと考えられていました。顧みて部局の責任者として反省させられます。



本学部では、昨夏からも、引き続き先生方は教育研究に懸命に取り組まれています。この間の事について幾つかの感想を書かせていただきます。

一つは、会員の皆様が気にかけられています就職問題です。学生達も一所懸命に頑張っていますが、やはり厳しい状況にあります。就職については、選り好みをしなければ就職先はあるという話があります。しかし、何かの機会に聞いたか読んだかしたのですが、学生が名前のある企業に行きたがるのには理由があります。いくつかの企業での不祥事や労働待遇の劣悪な状況などが報道されると、やはり知らない企業への就職は二の足を踏むことになります。県内企業、或いは中小企業にも優良な企業は多く存在しています。企業情報を正しく掴めば、就職先の開拓は可能です。その為に、大学・学部には就職支援室が存在しています。学生にはもっと積極的にそれらの施設を利用することを望んでいます。会員の皆様にもそれらの就職支援施設については何度もお伝えしていますが、より一層ご承知いただければ幸いです。

二つは、学生の活動についてです。12月の後援会理事懇談会では、常任理事の平井一臣先生の肝いりで、後援会から援助している学生活動の報告という新しい試みが為されました。三学科の学生が、ヨーロッパに語学及び異文化研修出かけたり、沖縄に戦争の記憶を辿り戦後の原点を発見したり、ディズニーランドでの労働者の意欲を学んで働くことの意義を確認したりという、それぞれの研修の成果が報告されました。我々も聞く機会を持ちましたが、大変新鮮でしたし、学生のたいなる意欲を感じました。これから、後援会総会などでも、このような試みが為されるようです。会員の皆様にも、法文学部の学生の意欲と優秀さを目の当たりにされ、

そして後援会の援助の意義をご確認いただければと思います。

三つは、大学予算のことです。昨夏大学の予算の大幅削減が話題になり、私たちも大変な思いをしていました。しかし、結果的には次年度では、大幅な削減はなくなりました。このような状況が生まれたのは、政府が求めたパブリックコメントに、保護者、学生など関係者による大学の運営交付金の削減や授業料免除の切り捨てなどに反対する多くの意見が寄せられた結果です。今後も、このような機会には会員の皆様も積極的に意見を表明されることをお願いしたいと思っています。

直ぐに新年度に入り、新しい活動が始まります。会員の皆様には、温かいご支援を心よりお願いいたします。

専門職大学院報告

～法科大学院の近況～

鹿児島大学大学院

.....司法政策研究科長 采女 博文

市民生活・企業活動に伴って生じる問題・苦悩を解決するための法的なサービスを地域の隅々にまで提供をし、個人の尊厳、正義と公平が市民の日常生活に息づいている社会を実現する必要があります。このために、豊かな人間性を有する専門家を学校教育を通じて養成する必要性が強調され、法科大学院が全国に設置されました(入学定員約5800人)。入学する学生には、学生時代に、法学以外の分野を学んだり、社会での労働経験のあることが望ましいとされています。教育を担当する教員についても、伝統的な大学教員の限界が指摘され、教員の2割以上が実務家(弁護士)であることが要請され、現職の裁判官・検察官も教鞭を執っています。



地域に根ざした人間性豊かな法曹を養成する教育を実践してきた鹿大の教育は日弁連のシンポジウム等でも高い評価を受けています。しかし、膨大な知識の修得を要求する司法試験の性格は変わらず、合格者数も2千人に抑制され、このなかで鹿大も合格実績を上げられないという深刻な事態にあり、後援会会員や同窓会会員から心配と激励を得ています。

現在、教育の質の向上に全力を傾けています。① 厳しい競争環境についての教員・学生の意識改革を行う、②双方向型授業（議論を通じて、事実の分析力、法的判断力、表現力を育てる。学生の十分な予習を前提とした授業）の徹底によって、司法試験で問われる能力を育てる、③厳格な成績評価（「優」評価は受講生の20%以内）、厳格な進級要件（GPA1.7以上）によって修了者の専門家としての質を保証する、④若手弁護士の協力下での学習指導の強化し、問題に対処する感覚をとぎすまず、これらの取組は、毎月発行のニューズレターに掲載し、それをHP上に公開しています（http://www.ls.kagoshima-u.ac.jp/kuls/news_letter.html）。今年は、なんとしても実績をあげたいと考えています。

なお、教育と結びついた地域貢献として、県弁護士会の協力を得て種子島・屋久島での法律相談（リーガルクリニックという授業科目）、学内での無料法律相談を定期的に開催していますが、大学が行うため相談しやすく、実地的な解決策を示すので好評を得ています。

鹿児島大学大学院

..... 臨床心理学研究科長 **安部 恒久**

後援会の皆様には、平素より臨床心理学研究科をご支援いただき、ありがとうございます。

おかげさまで臨床心理学研究科（専門職大学院）は、平成19年に高度な専門職である臨床心理士養成を目指して独立研究科として設置されましたが、順調に発展しております。

以下では、平成22年度の主な活動状況をご報告させていただきます。

平成22年度の入学試験では、新しい試みとして英語の試験にTOEICを導入しました。はたして受験生にどのように受け止められるか心配しておりましたが、今の学生諸君にとっては、TOEICなどの英語試験は特別なものではなく、グローバルな世界を生きていくための必須なものとしてとらえられている様子であり、成績も良く、頼もしさを感じました。

また、教育課程（カリキュラム）をより質の高いものとするために、平成22年度は文部科学省から財政的支援をいただき「地域支援プロジェクト」の試みを開始しました。地理的に遠く離れていて鹿児



島大学までご相談においでになるのが困難な方々のために、こちらから出かけていってご相談をお受けするという試みです。平成22年度は種子島、奄美、枕崎、伊佐、霧島などの地域に出かけ、教員、医師、保健師、看護師、保育士、社会福祉士などの専門職の方々の支援することに焦点を当てて活動を行いました。この試みは、平成23、24年度と継続し、将来は教育課程のなかに組み入れる予定であります。

就職状況は、平成21年3月に修了した全員が、難関といわれる家庭裁判所調査官をはじめとして希望のところに100%就職し、医療、福祉、司法などの領域でプロフェッショナルとして活動を開始しております。また、平成22年3月に修了する学生諸君も、現場での修了生の評判がよいせいか求人が多く寄せられ、鹿児島県や福岡県の公務員等、全員の内定が決まりつつある状況です。

なお、平成22年度の臨床心理士の資格試験は、10月（一次）と11月（二次、最終）に東京で行われましたが、鹿児島大学臨床心理学研究科（専門職大学院）を修了し、受験した14名全員が合格しました。全国に160校を超える臨床心理士養成大学院がありますが、全員が合格した大学院は10校程度であったと聞いています。

今後とも、学生諸君が高い志をもって専門職に携わることができるように粉骨砕身努力する覚悟でございまして、後援会の皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

就職支援事業

～就職ガイダンス参加学生の交通費一部支援事業～

法文学部就職委員長（経済情報学科教授）

..... **渋谷 正**

2008年9月のリーマン・ショック以後の世界不況のなかで、昨年度に引き続き本年度の法文学部の就職状況は大変厳しいものとなっております。昨年12月時点の政府調査によれば、全国の大学生の就職内定率は68.8%であり、調査が始まった1996年以降で最低となりました。本年2月時点の法文学部全体の就職内定率も76.8%（2月末現在）であり、全国並みの低水準です。

この「再びの就職超氷河期」のなかで、企業は厳選採用の方針をとり、学生の就職活動は長期化し、

就職活動に金銭的に耐えられない学生も出ています。

この状況に鑑みて、法文学部就職委員会は、今年度から、学部後援会のご協力を頂き、学生の就職活動中に支出した交通費の一部補助を実施することになりました。支援内容は、①企業説明会参加、②採用試験受験、③合同企業説明会（ガイダンス）参加に係る交通費の一部を補助するというものです。

補助額は、上記の活動に参加した場合、1回につき上限1,500円とし、参加回数については上限を設けておりません。ただし、後援会予算については制約がありますから、予算額上限に達し次第、補助は停止いたします。

補助を受ける場合は申請が必要ですが、平成22年度は11月から2月まで申請を受け付け、申請者は延べで39名、補助額の累計は202,300円でした。参加回数について上限を設けておりませんので、なかには10件前後の申請をして就職活動を続ける学生もおります。

学生は、企業説明会や採用試験受験のために、福岡、大阪、東京といった遠方に赴かなければならず、学生にとっては過大な費用負担を強いられます。交通費一部支援事業が、長引く就職活動のために少しでも支えになってくれればと願っています。

法文学部就職委員会は、後援会の支援を受けて学部独自の就職支援室を設けて、就職支援活動を行っています。また、本年1月22日には、就職委員長が、法文学部長とともに法文学部関東地区同窓会に行き、就職活動にたいする支援を訴えました。

雇用情勢が好転する兆しは、いまだに見られません。一人でも多くの学生に就職への道を開いてやるために、引き続き法文学部後援会のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

就 職 支 援 室

～平成22年度活動報告～

法文学部就職支援室

..... 室長 藤田 紘一

平成22年度の就職環境ですが、日本経済新聞社が平成22年4月21日にまとめた採用計画調査（最終集計、2644社回答）によると、平成23年春大卒採用計画数は平成22年春の実績に比べて2.3%の増加となっています。これは、「日本の景気が外需主導で

回復してきている」ことや、「製造業では平成21年度に採用数を大幅に絞り込んだ反動」で増加となりましたが、一方で「大卒採用数を前年度より減らす企業は、全体の36%を占める」など抑制傾向が続いており、就職氷河期であることに間違いありません。

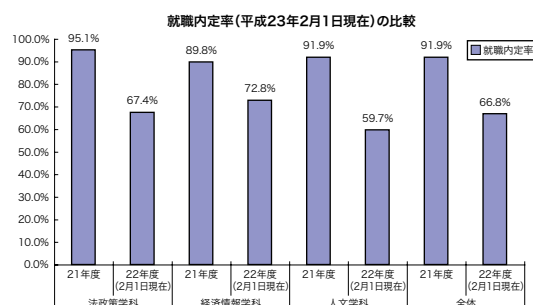
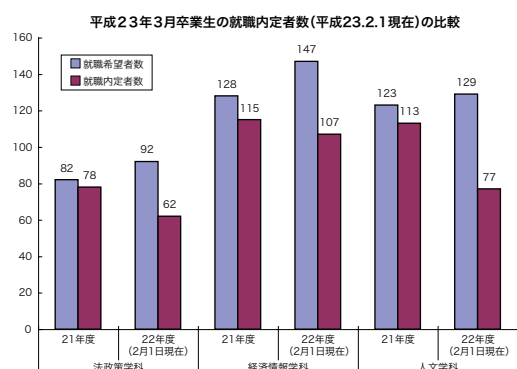
学生の活動状況としては、1月末頃から企業のセミナーに参加し始め、中には面接を受ける学生も現れました。その後、4月上旬の大手金融機関を皮切りに、大手企業を中心に内々定を得たとの報告が順次学生係の担当者へ寄せられています。

4年生全体の就職内定率は、平成23年2月1日現在66.8%（前年同期比±0）と残念ながらあまり芳しくない実績に止まっています。全国大学生の就職内定率68.8%（平成22年12月1日現在、前年同期比▲4.9%）に比べれば若干下回りますが、前年同期比では4.9%上回っています。

来年度も引き続き就職環境は厳しいものと予想されますので、平成22年10月より3年生を対象にゼミ単位で、就職活動全般についての支援を新たにスタートさせました。この結果、他県大学生に比べ出遅れていた就職活動も、軌道に乗り改善されつつあります。

3年生のご父兄の皆様には、学生に対してOB・OG訪問による情報収集及び企業研究等の就職活動と支援室の活用を積極的に行うよう声をかけていただければと思っています。

今後も時宜に応じた支援プログラムを提供して、引き続き学生に対する就職支援を展開し、厳しい就職環境での活動をサポートしていきます。



主な支援事業の成果報告

法文学部後援会では、保護者会員の皆様からお預かりした会費を、学生の海外調査実習の旅費や教育・研究活動の経費の補助に充てています。ここでは、その一部について成果報告としてご紹介します。

沖縄実地見学

..... 法政策学科4年 日高 葵

今回、私たち国際関係論ゼミ生は、平和学会への参加とともに実地見学をおこなった。第二次世界大戦時に、最後の砦と称され唯一、陸戦が行われた地であり、また今なお米軍基地が存在する地である。時間の許す限り戦跡を巡って廻ろうと、計画を立てて参加するにいった。

参加するまでに、学生主体の勉強会を通常ゼミの後に2時間程度行うなどして、沖縄にて戦跡を巡ることの意味を学生同士で確認しあい、また先生をお呼びしてお話しくださるなどして理解を深めた。実地見学の際、無感動に単なる景色として受け止めるということはなかったことから、成果をあげたと言えるだろう。

そして迎えた史跡巡りで、私自身が特に衝撃を受けたのが、糸数のアブチラガマである。鍾乳洞になっているガマ（＝壕）を、おぼつかない足取りで下へ下へと降りていく過程の時点で、地上の光や空気がどんどん遠いものとなっていった。示し合わせて懐中電灯を切れば、本当に一筋の光もないほどの闇である。何度も水たまりに足を取られ、転びそうになった。戦時中に、ひめゆり隊と呼ばれる年端もいかぬ少女たちは、ここで負傷兵の看護に走り回り、そして命を落としていった。「私たちは今、戦争があったまさにその場所に立っているのだ」と思うと、恥ずかしい話が恐ろしくてたまらず、一刻も早く地上へ出たいと気が急いた。

地上に出て太陽の光を浴びた瞬間、本当に力が抜けた感覚はずっと忘れないだろう。そして、全員で安保の丘と呼ばれる丘から見た米軍基地に、疑問の念しか浮かばなかったこともである。爆音と共に横切っていく戦闘機は、沖縄の地に本当に必要なものなのだろうか。終戦から時間がたつにつれ、実際の体験、想いを伝えていく人が少なくなっ

ていく。だからこそ、次世代の人間たちは、学ぶことをやめてはならないし、思考停止になっている暇もない。今を生きる私たちは、「知らなかった、騙された」で済まされる位置にはいない。受け取る情報が何を意図しているか、そしてそれらは平和への道筋を阻むものではないのかを、能動的に選び取っていくスキルを身につけるべきである。

新聞紙の上やTVを通して見える「沖縄での問題」を、私たちは他人事として捉えていないだろうか。未来を見据える目がある私たちは、戦争経験から学び、平和へ生かす義務を背負っていると痛感した、沖縄実地見学であった。

三大学合同ゼミ活動報告

..... 経済情報学科3年 田畑 学

9月15日（水）に、久留米大学において、鹿児島大学、福岡大学、久留米大学による三大学合同ゼミを行いました。鹿児島大学からは石塚ゼミが参加し、福岡大学、久留米大学も合わせて約100名の学生が参加しました。

自己紹介を済ませた後に、それぞれのゼミが報告を行いました。石塚ゼミは、戦後の日本のマクロ経済について実証班と理論班に分かれて報告を行いました。内容として、これまで私達が学習したマクロ経済学のモデル



を日本の経済にあてはめ、戦後政府が行ってきた経済政策について検証し、その結果から、将来の日本経済の展望を示しました。私達にとっては初めての大人数の前での報告だったので、緊張している学生も多かったですが、事前の準備も功を奏し、結果的に良い報告を行うことができたと思います。

久留米、福岡、両大学の報告の内容は、私達と同じマクロ経済についての他、ヨーロッパのサッカークラブの経営についてなど、ユニークなものも多かったです。一通り報告が終了した後、懇親を兼ね、バレーボールと食事会を行いました。学生、

先生方共に非常に気さくな方が多く、すぐに打ち解けることができました。普段あまり他大学の方々と交流する機会が無く、また、大人数の前での発表というものはなかなか普通の学生生活のなかでは体験することができないので、今回の合同ゼミでは貴重な経験をすることができたのではないかと思います。

来年度からも継続して合同ゼミを行っていく予定です。これをきっかけに、他大学との交流をもっと深めていきたいと考えています。このような素晴らしい機会はなかなか短い大学生活のなかでは出会うことはできません。今回の合同ゼミは、後援会の皆様のご支援あつての非常に貴重な体験となりました。後援会の皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

心理リハビリテーション研修

……臨床心理学研究科臨床心理学専攻1年 竹原 有季

～第29回心理リハビリテーション 東京キャンプ参加報告～

私は、平成22年8月22日～8月28日に行われた青山学院大学心理リハビリテーション研究会主催の「第29回心理リハビリテーション東京キャンプ」に参加させていただきました。

青山学院大学心理リハビリテーション研究会主催の「第29回心理リハビリテーション東京キャンプ」は、日本リハビリテーション心理学会より認定された発達障害児のための集団集中宿泊療育訓練キャンプです。参加者は、5泊6日の療育期間中、セラピストとして一人の発達障害児を担当し、臨床動作法に基づく動作訓練、集団療法、生活指導を行います。また、この療育訓練キャンプに参加することによって、参加者は日本リハビリテーション心理学会認定のトレーナー資格を申請することが可能になり、医療・福祉領域で必要とされる心理学的リハビリテーションに関する研鑽を積むことができます。

この度本研修会に参加させていただき、多くのことを学ばせていただきましたが、なかでも臨床心理学的援助による人の成長のすごさを実感できたことが印象的でした。私は脳性マヒの女子高校生を担当させていただきました。初日に会った彼女はあぐらで座することもままならず、俯きがちで声も小さく表情も暗めでした。しかし、動作訓練などを重ねるご

とに、あぐらでの姿勢を維持できるようになり、最終日には軽い援助は要りますが、立つこともできるようになりました。また表情も明るくなり、好きなものなど様々な話をしてくれるようになりました。私自身は日に日に動作も表情も変化していく彼女と生活を共にする体験を通して、人は心も体もこんなにも変わりうるものなのだとということを実感できたとともに、言葉のみのコミュニケーションに頼るのではなく、触れている手の感じなどをきっかけとして相手がどのような体験をしているのだろうと思いをはせながら援助をすることを学ぶことができました。

今回の参加にあたり、後援会より旅費の一部を補助していただきました。この場をお借りして後援会関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

ヨーロッパ研修旅行

……………経済情報学科4年 吉尾 佳織

～ヨーロッパ研修旅行に参加して～



私たちヨーロッパゼミは中島大輔先生の引率のもと、ゼミ生8名で昨年9月7日から23日までの約2週間、ドイツとチェコで研修を行いました。ドイツではベルリン、ドレスデン、ニュルンベルク、ミュンヘンを、チェコではプラハを訪ねました。

9月といってもドイツは肌寒く、前日まで半袖を着ていた私たちはまず気候の違いに驚きました。そして到着してしばらくは買い物の難しさに戸惑いました。日本とは違い、会計の際に店員が釣銭の都合からか「〇〇セント持っていないか?」と細かく聞いてきます。そのドイツ語を聞き取ることができず、はじめはパンやジュースを購入するだけでも緊張しました。

各都市では基本的に初日は先生の引率、2日目以

降は2、3名のグループに分かれての自由行動というスケジュールでした。引率ではベルリンの壁など歴史的な建造物やそれぞれの都市の城や教会などについて説明を受けました。自由行動はあらかじめ地下鉄やSバーン(鉄道)での行き方や時刻などを入念に調べ、各自のテーマや関心に基づいて訪問先を選び、見学を行いました。

私は「強制収容所におけるユダヤ人の芸術活動」が特殊研究(卒業論文)のテーマです。自由行動日を使い、ベルリンではユダヤ人博物館とザクセンハウゼン強制収容所を、チェコではプラハからバスで1時間のテレジン強制収容所を訪ね、現地調査と資料集めを行いました。テレジンは元々要塞都市として建設され、後にナチスによって町全体がゲットーと強制収容所に変えられました。ここはゲットーで芸術活動が行われたところです。要塞と収容所という両方の側面を持つ収容所の内部は、想像したよりもはるかに広く、歴史の中に迷い込んだ不思議な感覚をおぼえました。今まで本でしか見たことがなかった子どもたちの絵も展示されていて、実際目の前にしてみると胸がしめつけられる思いがしました。自分の目で見ること、本や資料だけでは分からなかった収容所の雰囲気を感じることができ、はるか遠い存在に思っていたユダヤ人迫害の問題を身近でより深く考えることができました。また現地で入手した資料を翻訳し、自分で撮影した写真も資料に取り入れたことで、独自の卒業論文を完成することができたと思います。

今回の研修旅行では、卒業論文をより深いものにできた一方で、異文化の中で自分の無力さも感じましたが、ドイツやチェコの人たちの素敵な笑顔や優しさは一生忘れることができません。

私たちは今回、後援会の援助のおかげでこのような素晴らしい経験をさせていただきました。心から御礼を申し上げます。

歴史民俗資料館実地調査

..... 人文学科4年 福森 真実

～LGMに参加して～

LGMとは、「Let's Go to Museums」の略称です。活動内容は、県内各地にある博物館を見学し、展示方法や施設そのものを調査して博物館全体を見ていくというものです。また取材学習として学芸員の方に様々な質問を

させていただき、現場のお話を直接おうかがいして、より深く博物館運営について学んでいます。後援会からの補助をいただき、今年度も黎明館(鹿児島市)・尚古集成館(鹿児島市)・歴史交流館金峰(南さつま市)・加世田郷土資料館(南さつま市)・川内歴史資料館(薩摩川内市)・出水市野田資料館(出水市)・ミュージアム知覧(南九州市)といった様々な場所へ調査に出かけることができました。



こうした調査の中でも、私は特に学芸員の方へのインタビューがLGMの活動の中で重要だと感じました。インタビューは事前に班内で質問を話し合い、学芸員の方へアポイントメントをとり、見学当日に取材を行います。このとき、どういった質問をすれば多くの答えをいただけるか・更に深い話をうかがうことができるか、という点を考えて慎重に検討します。また、インタビュー中に生まれた疑問等についても積極的に質問を行い、より良い取材ができるよう心掛けて臨みました。インタビューでは、現場の方のお話を直接うかがうことで、博物館についてより深く知ることができ、この取材学習は私にとって貴重な経験となりました。

私は学芸員の資格取得の為、学芸員に関する講義をいくつか受けていたのですが、LGMの活動で実際に博物館へ調査に行き、インタビューを行うことが講義の復習にも繋がり、博物館学習の深みが増しました。また、学芸員の資格取得を目指す学生以外にとっても、博物館について学び、取材学習を行うことは大変有意義な活動だと思いました。LGMは、ただ見学し調査するだけでなく、実際に博物館で働いていらっしゃる方から、展示や運営の特色・見所といったその館ならではの特徴、更には館の抱える問題や今後の課題などもお聞きすることができます。こうした活動を行うことは、コミュニケーション能力を高めることにも繋がると感じました。また調査後には検討会があり、調査結果を発表して話し合う場があるため、調査だけで終わることなく一貫して充実した活動を行うことができました。これからも今までの調査結果や取材内容をふまえて、より良い活動を続けてほしいと思います。

留学における単位修得支援

..... 人文学科4年 榊 志穂美

～オーストラリア

シドニー工科大学への留学を終えて～



私は留学で非常にたくさんのことを学ぶことができました。まずはこの大きな機会を与えてくださったすべての方々に深く感謝いたします。

シドニーで得たもっともかけがえのないものが友人です。初めのころは自分の英語力に劣等感を感じ、自分からある程度の壁をつくってしまったたり、“アジア人”としてのカテゴリーから距離を感じさせる人たちとの出会いにおびえたりしたこともあり、なかなかいい友好関係が築けなくて、さびしさや悔しさを感じた日々もありました。しかし、慣れていくごとにどのように英語で自分を表現していくのかコツをつかんで、国籍を超えた友人関係をつくれるようになり、生涯の友を得ることもできました。また、週1回テニスをしたり、サッカーをしたりするなど、スポーツを通しての交流も多かったです。アルバイトや、バレーボールのサークル活動など、充実した生活でした。英語をつかいながら働いたことは、自分の自信にもつながったと思います。

私の留学の一つの大きな目標は、英語圏での英語教育、外国語教育について学ぶというものでしたので、履修した英語教育の授業はとても興味深いものでした。多文化社会のなかの教育で、世界の共通語としての英語と、母国語としての英語のギャップをどのようにして教えていくかという問題はおもしろかったです。また、毎週木曜日には、ボランティアで現地の学生に、日本語クラスを開きました。今までなんとなくわかっていた日本語の仕組みや、日本の文化などを、新しい視点から改めて気付かされることもあり、とても貴重な体験になったと言えます。

新しい友達との交流や、ひとつひとつの出来事

は、私の価値観を変える部分もあり、視野は確実に大きく広がりました。英語圏からの同世代の友達とは、もはや英語を学ぶのではなく、より専門的なことを学びに留学に来ているということを知った時は、私は彼らと同じ年齢にして、英語をいまだ勉強しなければ会話にもまともにについていけないということを感じ、ショックをうけたのが正直な気持ちでした。しかし、この経験を通して、世界共通語；英語とまったく違う言語をもつ日本人が英語に関してのディスアドバンテージをどのようにプラスに変えていけるのか、英語を使って、どのような話をする事ができるのか、ということを実際に考えるようになりました。この留学を生かし、これから英語教育を通して、日本を世界に発信させられるように努力していきます。

..... 人文学科4年 竹山 依里

～ドイツ

ミュンヘン大学への留学を終えて～

2009年9月1日から私のドイツの留学生活が始まりました。最初の1カ月間は、語学学校に通いながら各種手続きを済ませるなど、ドイツの生活に慣れるので精一杯でした。1カ月が経つと、いよいよ大学の講義が始まりました。

講義の中で日本と違うなと感じたのは、説明が一区切りすると必ず先生が学生に質問をするところです。また学生の方もなにかわからないところや疑問に感じるところがあれば、途中でもよく質問をしていました。

大学での授業以外で驚いたことは、学生運動がしっかりしているということです。大学が始まってから、大規模なデモを行っていました。今回のデモの理由は大学のシステム変更や大学費用の値上がりなどです。私は、日本の学生とドイツの学生の違いをこのデモに感じました。そしてこのデモを見て以来、もう少し自分の生活している社会にしっかり目を向け、自分にできることを考えるべきなのだと思うようになりました。

後期は4月の半ばから始まりました。前期で大体の大学生活に慣れたため、後期は自分で授業計画を立て、授業を順調にこなして行きました。そして7月の試験期間に入ると、口頭試験を受けることになりました。日常会話以上にドイツ語を話すということにまったく自信がなかったのですが、どうにか1時間の口頭試験を終え、合格しました。きちんと授

業を受け、試験を受けることがドイツ留学の中での私の大きな目標だったのでとてもうれしかったです。

この留学は私にとって歴史を学ぶことについての意義を改めて考えさせられる一年でもありました。私が大学で歴史を学んでいることを知ると、ドイツ人の友人から日本の歴史教育について聞かれたり、逆にドイツの歴史教育について話をしてくれたりしました。歴史を学んで将来どうするのか、とよくいろいろな人に問われますが、やはり人と関わりあう中で歴史を知っていなければ、きちんとした付き合いができないし、相手に対する興味も変わってくるのではないかと思います。

この留学を通していろんなことを見聞きし、そして多くの友人を作ることができました。そして自分がいかに物を知らないのかも改めて知り、またもっと知りたいこともたくさん出てきました。留学という大きな目標が終わった今、今度はこの留学を通して得た知識や疑問を通してさらに日本で学び、またドイツを訪れたいと思います。



保護者の皆様からのメッセージ

保護者の皆様からいただいたお便りの一部をご紹介します。

◎保護者：木下 尚孝 様
(法政策学科 1 年).....

学生には卒業後の進路について厳しい状況が続いています。大学側の教務課、学生課も今までと違う意識改革、行動が必要だと思います。その気持ち、雰囲気が学生側に伝わるキャンパスになって欲しい。

こういう時だからこそ、大学側（教授陣も）と、後援会総会の懇親会の折りに、もっと時間をとっての交歓会の工夫が必要とも感じました。あの貴重な

ひとときを、先生方とのふれあいの場に時間をもう少し割けないかどうか……。県外内からわざわざ出席するのに、会計報告に貴重な時間の多くが費やされている気もします。各テーブルに1人～2人ずつ、先生方の席を設けたら、もっと大学側との親近感がわいてくるのではと思います。そういう心の通じ合いが、学生達も相談に行きやすい風土が培われ、将来胸をはって、鹿大法文学部を卒業したと、愛着をもって言える学窓になっていくのではないのでしょうか。

新年度は新幹線も開通します。絶好の機会到来と考えます。

伝統のある鹿大、更なる発展を!!

◎保護者：白柿 悦子 様
(経済情報学科 3 年).....

「ほんと大丈夫?お母さん帰るよ!？」

「だいじょうぶって!」

言葉とは裏腹に不安気な表情の娘のひとり暮らしが始まって、3年近く過ぎました。娘が希望の大学に行きたいという夢が叶ったと同時に、親元を離れていくという現実。うれしいような寂しいような、複雑な親の気持ちに、娘が気付くはずもなく、履修届けだの、シラバスだの、ミクロ経済学だのと、大学経験のない親にとっては、「?」のことばかり。

それでも、未知の世界への不安が少しずつ消え、楽しく充実した学生生活が始まった様子に安堵したことを覚えています。人生の中のわずか4年間。その時でなければ経験できない何かがきっとあるはず……。その何かを見つけてほしいと思っていました。人との出会いや、初めてのアルバイト、人生初の海外研修旅行など、少しずつ新しいものに挑戦しているようです。卒業まであと1年。これまでと比較にならないくらい変化の大きい年になるでしょう。厳しい社会へ一歩踏み出す力と勇気をしっかりと身につけて、卒業という日を笑顔で迎えられることを願っています。

◎保護者：赤池 厚子 様
(人文学科 4 年).....

娘が臨床心理士を目指して4年、またたく間に大学院への進学の時になりました。大学受験の頃、親としては、自宅から通学できる大学へ進学してくれればと思っておりました。しかしながら、幼い頃から決めたことに妥協を許さない娘は、大学入学の時点から将来を見据えて本学を選択しました。

当時、新幹線が八代鹿児島間で開通しておりました

ので、熊本から新幹線通学する条件で受験しました。入学後しばらくは、朝6時に家を出て夜8時過ぎに帰宅する(片道2時間)という生活を続けておりましたが、大学をはじめとして鹿児島の皆様に接していくうちに、一人暮らしの自信ができて、現在は鹿児島で元気に

暮らしております。

親としてはまだまだ心配は絶えませんが、楽しい学生生活を送っている様子を聞く度に安堵し、皆様に感謝しております。これからの2年間も皆様にご指導いただき初志貫徹することを、願っております。

平成 22 年度 保護者アンケート集計結果

今回の平成 22 年度保護者アンケートにつきましては、平成 20 年度に続き 2 年ぶりの調査となりました。アンケートの実施方法は、法文学部及び大学院人文社会科学研究科の保護者の皆様に、平成 22 年 6 月に後援会総会の開催通知に同封し、1260 名の保護者あてに送付して、475 名の方からご回答いただきました(回収率 38%)。お忙しい中、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

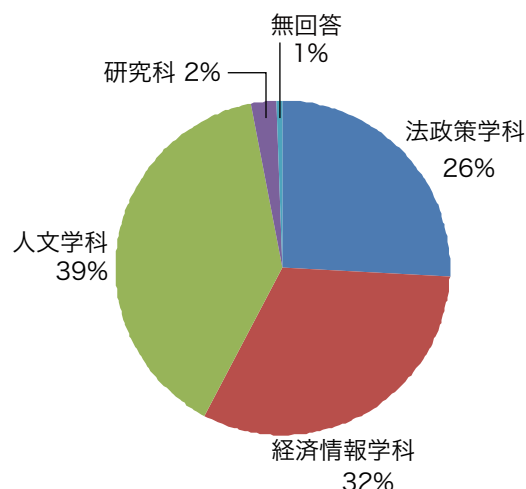
さて、今回のアンケート集計結果から、身につけてほしい知識として「幅広い教養」や「資格・免許取得の知識」、そして「就職支援」「学習成果」「学習内容」に関する情報が求められており、保護者の皆様が大学の教育内容や就職支援などにたいへん強い関心を持たれていることが明らかになりました。また、保護者の満足度が、「非常に満足」と「満足」を合わせると 80%を超えており、たいへんありがたい結果となっております。

今回のアンケート結果を基に、高度の専門知識と幅広い教養を持ち、現実に応じた問題解決能力・スキルを有する学生の育成を目指して、保護者の皆様のご期待に添えますよう、今後もより一層、教育の充実に取り組んで参りたいと思います。

◆お子さん(被保護者)についてお答えください。

【回答者の被保護者(学生)の所属】

- 法文学部：1. 法政策学科
2. 経済情報学科
3. 人文学科
大 学 院：4. 人文社会科学研究科



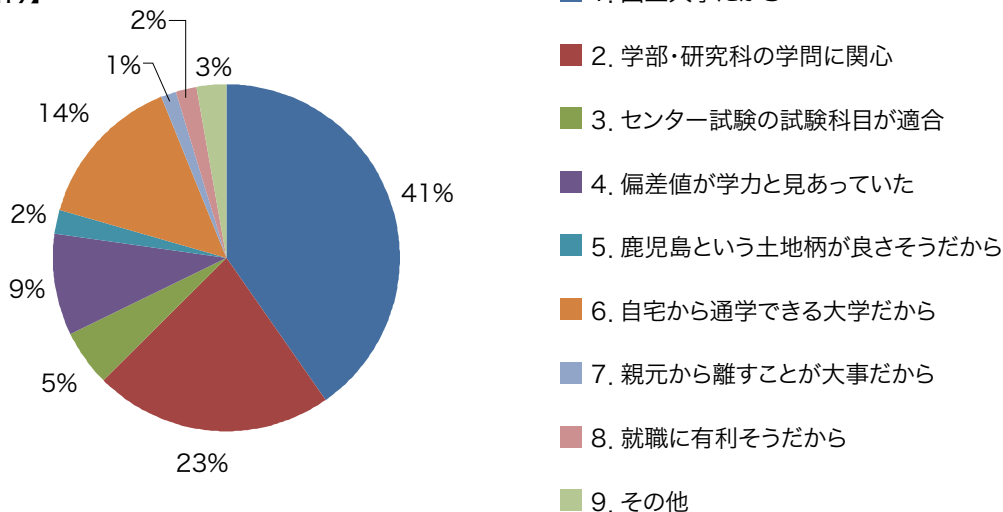
◆お子さんの入学に関してお答えください。

①お子さんが本学部・本研究科に入学した理由は何ですか。

以下の項目から2つまで選んでお答えください。

1. 国立大学だから
2. 本学部・本研究科の学問に関心があったから
3. センター試験の試験科目が適合しているから
4. 偏差値が学力と見あっていたから
5. 鹿児島という土地が良さそうだから
6. 自宅から通える大学であるから
7. 親元から離すことが大事だと思ったから
8. 就職に有利そうだから
9. その他（ ）

【入学理由(全体)】

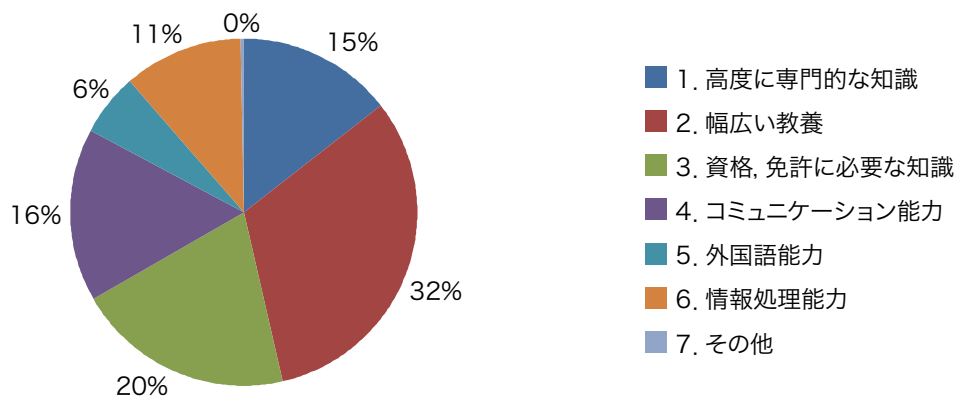


②お子さんが本学部・本研究科でどのような知識や学力、能力を身につけてもらいたいですか。

以下の項目から2つまで選んでお答えください。

1. 高度に専門的な知識
2. 幅広い教養
3. 資格、免許などを取得するための知識
4. 人とコミュニケーションを行う能力
5. 外国語によるコミュニケーション能力
6. 情報を適切に処理する技術・能力
7. その他（ ）

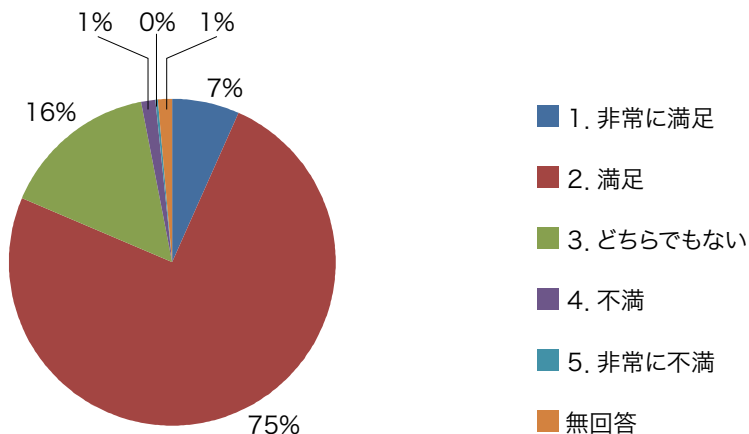
【身につけてもらいたい知識や学力、能力(全体)】



③お子さんが本学部・本研究科で学んでいることに満足していますか。

1. 非常に満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. 非常に不満である

【保護者の満足度(全体)】



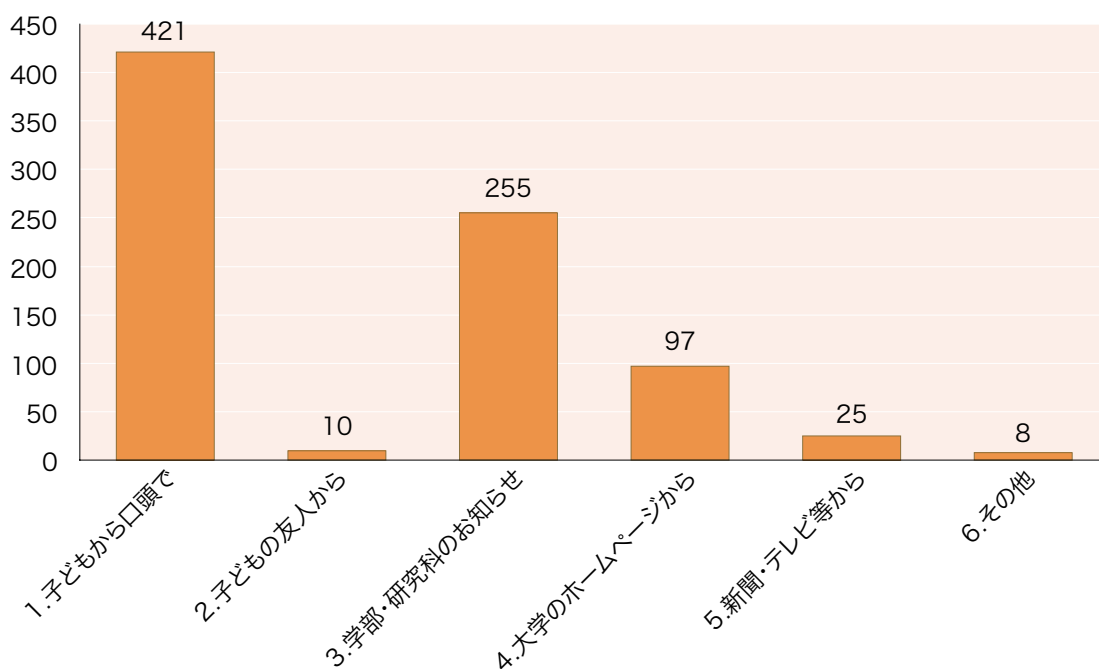
◆本学部・本研究科から保護者に対する情報提供についてお答えください。

①本学部・本研究科の動向やお子さんの学習等についてどこから得ていますか。

以下の項目から2つまで選んでお答えください。

1. お子さんから口頭で
2. お子さんの友人から
3. 学部・研究科からのお知らせ
4. 大学等のホームページから
5. テレビ等のマスメディアから
6. その他（ ）

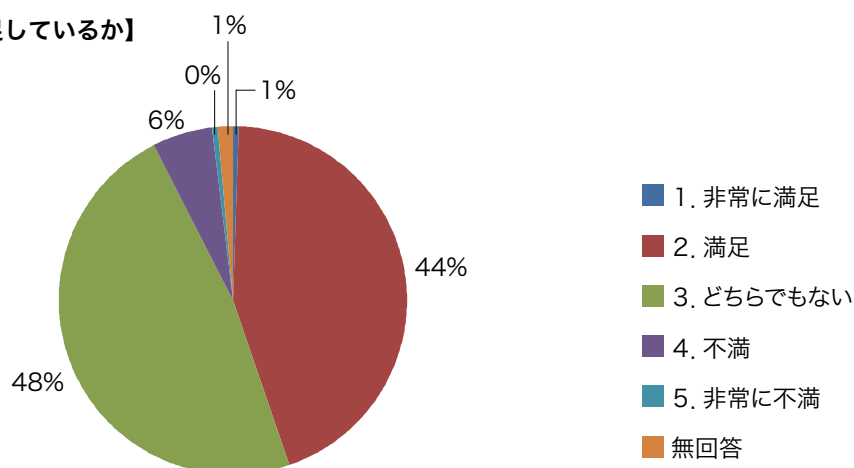
【学部や子どもの情報はどこから得ているか】



②本学部・本研究科からの情報提供に満足していますか。

1. 非常に満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. 非常に不満である

【学部からの情報提供に満足しているか】

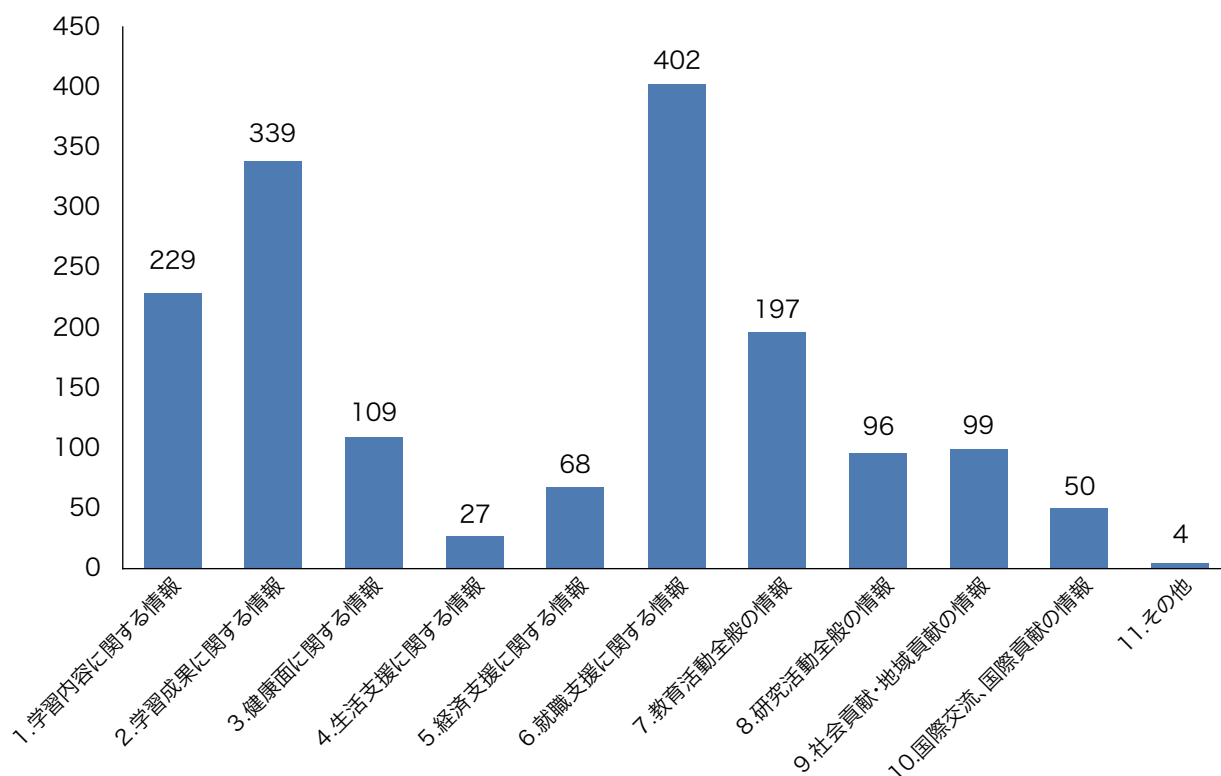


③お子さんに関連して、もっと知らせてほしい情報は何か。

以下の項目から、4つまで選んでお答えください。

1. 学習内容 (教育内容や学年歴、授業時間割等) に関する情報
2. 学習成果 (成績や単位修得状況等) に関する情報
3. 健康 (健康診断結果、健康相談の内容等) に関する情報
4. 生活支援 (アルバイトやアパートの斡旋等) に関する情報
5. 経済支援 (授業料免除、奨学金等) に関する情報
6. 就職支援や就職情報に関する情報
7. 本学部・本研究科の教育活動全般に関する情報
8. 本学部・本研究科の研究活動全般に関する情報
9. 本学部・本研究科の社会貢献・地域貢献に関する情報
10. 本学部・本研究科の国際交流・国際貢献に関する情報
11. その他 ()

【もっと知らせてほしい情報は何か】



アンケートで寄せられた意見や要望

教育について

- 大学では本当の意味での学力をつけさせていただきたいです。
- できる範囲の中で様々な事を学んでほしいと願っています。
- 1人1人に細やかな御指導をありがとうございます。学力不足がなかなか大変でしょうか？今後とも厳しいご指導をお願いいたします。
- 今後も子供たちがよりよい環境のなかでのびのびと勉学・研究に励めるようよろしくお願いします。
- 親は子供の進む道がとても気になりますし、心配です。どんな環境でもしっかりと対応できる強い精神力と正しい判断力を身につけてくれることを願っています。
- 4年生になったらほとんど学校には行かないそうですが、他の授業なども今後のために受けてほしいと思っています。
- 子どもと保護者のコミュニケーション不足の解決策を大学側に求めるなど、以前は考えられなかったような保護者の要望が増加する中で、大学の運営にはご苦労が絶えないことと思います。今後とも地域をリードする大学として、発展されることを期待しております。
- 臨床心理士を目指して貴大学を受験しました。しかし希望者が多く希望通りのコースに進めないかもしれないと学校から子供が聞いて悩んでいます。ぜひ希望の分野の勉強をさせていただきたいと思います。
- 心理学が学べないため非常に不満である。このような状態になる前に一言注意してほしかった。もしくは親に知らせてほしかった。

就職・進路・資格について

- 懇切丁寧な指導をしていただいている点に感謝申し上げます。きちんとしたところに就職できるか、このことを一番心配しています。
- 長男も同じ学部で公務員を希望して公務員講座を受講し、都庁に入庁できた。今後もっと充実させて、国家公務員採用Ⅰ種試験の大量合格を目指してほしい。
- 地理的条件も含め就職支援活動と発信などを高めてほしい。熊大との評価に負けないでほしい。
- 困難な就職状況の中で貴大学が具体的にどのようにとりくんでいるか知りたい。
- 卒業後の進路・就職について現状と対策を知りたいです。
- 近年、全国的に就職が大変厳しい状況にあります。就職に関する現状や学生の動向などについて、お知らせいただければと思います。
- どうしても就職のことが気になります。自分の力でやらなければならないのですが、どうにかして4年終わったときは仕事につけるようにと願っています。サポートをお願いします。
- 現在3年生ですが、就職状況または来年度の動向など詳しく分かりましたら知らせてほしいと思います。
- 昨今の不景気で就職のことを今から心配しております。Ⅳの④の質問でも出ましたが、情報を得たいと思っています。この場を借りてですが、授業料免除をいただき、とても助かり感謝しております。
- 就職に関する保護者向けの説明会を、各地区もしくは九州の何ヶ所かで開催してもらいたいです。
- 本学部になかなか出向けないので懇談会(面談会)の機会を増やしてほしい。就職に関する情報がほしい。
- 大学院受験を考えていますが、情報が本人任せで少ないようです。アドバイスを頂きたいです。
- 大学院を目指しておりますが成績など知りたいです。入学できるよう願っており、がんばってほしいです。
- 就職情報の提供のみでなく就職を意識したセミナーや資格取得の講習も授業へ反映させてほしい。
- 1、2、3年生の時に色々な資格試験に積極的に取り組むように指導してほしい。

大学生活について

- 家から離れ、あっという間に4年生ですが、健康で楽しい大学生活を送れたことに感謝しております。
- 多くの友人、先輩、そして頼もしい先生方のおかげで、楽しい大学生活を満喫しております。感謝申し上げます。
- 本人が選んで通学しています。頑張っていると思います。子どもが満足していれば、それが一番です。よろしくお願いします。

- 体調を崩しやすい子で心配しておりましたが、保健管理センターのお世話になりながらも、これまで頑張っ
てこれました。鹿児島大学で良かったと思っております。
- 充実した大学生活を送っているようです。今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。
- 一人娘を鹿児島に出しました。さびしいです。よろしくお願いいたします。
- 女の子の一人暮らしですので、大学周辺の治安が一番気になります。大学で注意喚起・治安維持をお願い
したいです。
- まだ入学したばかりで、アパート暮らしでどうなのかわからないところです。もう少し時間をかけてみた
ら少しはわかると思います。
- 健康面・精神面でもつらい時があるようです。離れていてどうすることがいいのかわからない時があり
ます。本人が気軽に相談にいける窓口があればと願います。
- 四年間大変お世話になりました。
- 子どもを学ばせていただきありがとうございます。

情報提供について

- 大学そのものが解らないので、情報があれば何でもありがたいです。
- ゼミの教授紹介や、研究内容など詳しく紹介してほしい。卒業生がどのような就職先で働いているか現在
の姿のレポートや、卒業生の感想など提供してもらえると面白いと思う。
- 授業料免除等、本人ができる事はしっかりと学校からの情報提供でやってくれているので助かっています。
- 携帯電話に送信されるデータについて、不要なデータ・過剰送信等学生の間では送信者側に疑問を抱いて
いる話を耳にしています。よろしくご検討ください。
- あまりにも情報が少なすぎると思います。友人と遊びなのか、バイトなのか、いつテストなのか、簡単に
結構ですので状況を教えてください。

成績の送付について

- 保護者にも必ず成績を知らせてほしいと思います。
- 毎年成績送付を希望してまいりましたが、いまだ実現されておりません。（どの程度成績をとっているの
か親としては知りたいため）
- 毎回成績の送付をお願いしていますが、実行していただけないのはなぜですか？娘の努力の成果をぜひ知
らせてください。
- 成績の送付は親にもぜひお願いいたします。
- 学習内容・学習成果の情報が子供から得られない（次の学年にあがれるかどうか程度）ので保護者に知ら
せてほしい。

大学院について

- 高等教育機関、研究施設の設置は、奄美半島にとって永年の切望事項である。奄美サテライト教育の充実発展は、
鹿大の研究フィールドとしてもプラスの効果が期待できると思う。さらなる連携、情報交換をお願いします。
- 博士研究課程なので、学内からの情報はセキュリティや教育内容などはあまり重視していません。本人の
希望する研究を存分にさせてやりたいです。
- 司法試験合格の実績を高めてほしい。
- 法科大学院の現状について意見があります。

後援会について

- 後援会組織があることに感謝しています。保護者への情報提供を充実させてください。
- 昨年の懇談会に出席させていただき、鹿大の役員、先生方の温かさを強く感じ安心して帰宅しました。役員
の方々は大変かと存じますが、このような会が続きますことを、また益々の後援会のご発展を祈念いたします。
- 学生さんと親御さんのごつくばらんなトークタイムなどあればいいと思います。わが子以外の学生さんにと
りとのめない話題で盛り上がりたいたいです。
- 総会に併せて保護者の面談も実施してほしい。
- 保護者面接希望と書きましたが、学年別懇談会でも実施していただければありがたいです。

- いつもお世話になっている先生がたにぜひお会いしたいと思っています。
- 総会、懇談会とも2名で出席です。今年で最後となりました。毎年、他の父兄、先生とお会いするのがとても楽しみでした。こういう機会を作ってください感謝しております。
- 佐賀から総会に参加します。大変楽しみにしています。
- 総会に参加したいと思っておりましたが今回他に予定があり残念です。できれば開催まで一か月位前にご案内をいただけると助かります。
- 今回は総会に行くことはできませんでしたが、出来るだけ参加しますのでよろしくご指導のほどお願いいたします。
- 宮崎ではただいま口蹄疫問題で非常事態宣言の中にあり外出は控えておりイベント等も中止されています。そのため総会への出席を控えさせていただきます。
- 総会に出席したかったのですが、宮崎県民なので自粛いたします。
- 仕事の都合で昨年に続き総会に出席できないのが残念です。先生方ともお話ししたかったのですが・・・。
- 遠方のため総会等に出席できず残念です。
- 後援会だよりの送付ありがとうございます。毎回感想をと思っておりましたが、いつも出さずじまいでした。御苦勞様です。

その他

- アンケートの「御子息（御息女）」という書き方があまり時代には合っていないのではないのでしょうか。ていねいな男女の差別とも考えました。
- 鹿大だよりをみているので安心です。
- よりよい学校作りのために、親も具体的に協力できればと常々考えております。
- 保護者向けの授業公開とか学部通信等は全く必要なしと存じますが、昨今ではそう云う事を望む方もおられるのではないのでしょうか。

【アンケートのご意見について】

今回の保護者アンケートに、たくさんの貴重なご意見やご要望をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

その中で、「成績の送付」につきまして、法文学部の現状をご説明させていただきます。法文学部では、修学指導の一環として、前期と後期終了後の年2回、その期の修得単位数が基準以下であった成績不振の学生の保護者あてに、成績を通知しています。

また、成績不振の学生に対しては、指導教員・クラス担任等が面談のうえ、助言・指導を行い、その指導内容について「助言・指導実施報告書」を作成して、法文学部長へ報告するとともに、学科の関係教員等が連携してきめ細やかな修学指導を行っています。

なお、学生が成績を確認したい場合は、大学会館や附属図書館に設置してある「証明書発行機」により、平日の時間内（8：30～18：00）であれば、いつでも簡単に成績証明書を交付されますので、ご参考までにお知らせいたします。

【後援会事務局】

平成 22 年度後援会役員一覧

会長：小原幸三
顧問：石川英昭
副会長：西啓一郎、山之口雅代
常任理事：平井一臣、金丸 哲
理事〔保護者〕：
（法政策学科）宇都節郎、山之口雅代、青木素子
（経済情報学科）藤崎昌典、後藤浩一郎、伊地知裕子
（人文学科）西啓一郎、後藤美佳子、森山裕二、西垂水誠
（人文社会科学研究科）小原幸三
（司法政策研究科）田上公洋
（臨床心理学研究科）山口雅之

理事〔教員〕：
（法政策学科）木村 朗、森尾成之
（経済情報学科）石塚孔信、金丸 哲
（人文学科）横山春彦、新田栄治
（司法政策研究科）米田健一
（臨床心理学研究科）松木 繁
監査：通山裕樹、桑原 司
監事：湊 哲郎

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
電話 099-285-7510、7517 FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp
○後援会ホームページ：http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/